

秋の土づくりで収量・品質の向上を図りましょう! 土づくり肥料で不足成分を補給しましょう!

土づくり肥料の主な成分と効果

ケイ酸

稲はケイ酸を非常に好み、肥料の中でも生育期間中に一番多く吸収する成分です。近年の異常高温に対応するためにも、ケイ酸をしっかり補給することが重要です。

ケイ酸を施用すると、受光態勢が改善され、**光合成が活発**になります。そのため…

- ① 根部からの吸水量が増加し、葉温の急上昇を防ぎます。
- ② 細胞壁が強化され、耐倒伏性、耐病性が高まります。
- ③ デンプンが蓄積され登熟歩合が高まり、食味向上が期待できます。

根量が増加!

ケイ酸施用区



無施用区



鉄・マンガン

鉄: 根腐れなどの生育不良の原因となる硫化水素の発生を抑える効果があります。
マンガン: ごま葉枯病の発生を抑える効果があります。



令和6年作においては、ワキの発生が多くみられました。県内でも多くの地域で鉄が不足傾向にあります。また、ごま葉枯病が年々増加している地域もあります。

左: ワキの発生した圃場
右: ごま葉枯病にかかった稲

おすすめ土づくり肥料



- ① ニュー米スター(左上)
・ケイ酸特化型の土づくり肥料。15kg袋で扱いやすい!
- ② ソイルキーパーFe(右上)
・鉄不足の圃場におすすめの鉄特化型肥料! ケイ酸も含む。
- ③ みつパワー(左下)
・マンガンを含む肥料。ごま葉枯病対策に! ケイ酸・鉄・苦土も含む。
- ④ 稲サボ(右下)
・堆肥と普通肥料を混合したハイブリッド肥料。
・牛ふん堆肥を約30%混合しており、有機物による土壌改良に加え、リン酸や加里、ケイ酸、苦土、マンガンといった重要な成分を幅広く含む。

〇肥料成分一覧

肥料名	容量	ケイ酸	苦土	マンガン	鉄	アルカリ	その他
ニュー米スター	15	32					32 リン酸: 2
ソイルキーパーFe	20	13.5	1.5		(19)	35	
みつパワー	20	(25.1)	(2.7)	10	(1.7)	(21.7)	
稲サボ	15	(8)	(3)	(3)			窒素: (0.8) りん酸: (7) 加里: (6)

※ () 内は保証値でなく成分分析例



収穫後の秋すき込みと腐熟促進材のご紹介

■ 稲わら・もみ殻の秋すき込みにより得られる効果

① 稲わらの腐熟促進

圃場の稲わらの腐熟を促進することができます。腐熟の促進により、翌年の代かきを行いやすくし、ケイ酸の土壌還元や保水力の向上を図ることができます。

② 移植後のワキ対策

秋に稲わらを十分に腐熟させることで、ワキの原因となる硫化水素の発生を抑制できます。

③ メタンガスの排出量削減

湛水状態で稲わら等の有機物が分解されることで発生するメタンガスですが、秋のすき込みで有機物の腐熟を促進することでメタンガスの排出が軽減できます。

■ おすすめ稲わら分解促進剤

① フラ分解キング

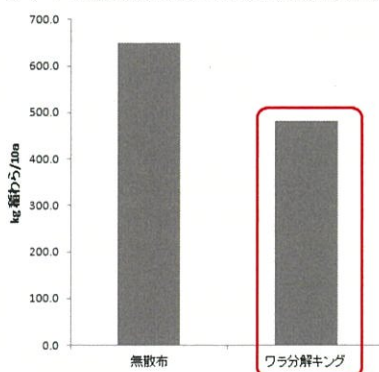
ワックス分解菌とセルロース分解菌の相乗効果により、稲わらの分解を促進する新しいタイプの分解促進材です。



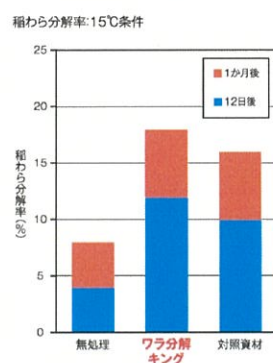
【施用量】10kg/10a

試験内容一例(メーカーHPより引用)

グラフ1: 秋施用による稲わら分解促進効果



グラフ2: 稲わら分解試験(室内)



② アグリ革命・アグリ革命アクア

酵素により稲わらを分解する分解促進材。微生物資材と比較して土壌環境の影響を受けにくい。そのまま散布できる粒剤タイプと希釈して散布できる液剤タイプがあります。



【施用量】

アグリ革命: 2kg/10a

アグリ革命アクア: 100ml/10a(10~500Lの水で希釈)

【使用方法(共通)】

① 均一に稲ワラにかかるように散布する。

※ 雨降り後や朝露など水分があるときに散布すると効果的

② 散布後、浅く(5cm程度)すき込みをおこなう。

(肥料農薬部 肥料農薬推進課)

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。